

資産運用レポート：無配転落

1 はじめに

2014年9月17日、ソニー（6758）が「剰余金の配当（中間配当及び期末配当）に関するお知らせ」というニュースを発表しました。

当社は、本日開催の取締役会において、2014年9月30日及び2015年3月31日を基準日とする剰余金の配当（中間配当及び期末配当）について、無配とすることを決議いたしましたので、お知らせいたします。

同社が無配に転落するのは、1958年の上場以来、初めてです。翌9月18日の株式市場では売り注文が殺到、始値は258円安の1865.5円でした。

ところが、実はこの日が投資チャンスでした。10月末には日銀の追加緩和というサプライズもあり、現時点での株価は3,000円を超えています。勇気を振り絞って買ってあげば、相当に儲かったはずですよ。

皮肉なことに、無配転落が株価のターニングポイントとなることも少なくありません。主な理由として、次の3つがあげられます。

- 無配株に投資できない機関投資家からの見切り売りにより、大口の売りが出尽くす
- 悪材料出尽くしとなり、空売りを仕掛けていた売り方の買戻しが入る
- 会社側としても、経営陣の交代、不振事業のリストラなど抜本的な対応を余儀なくされる

★ソニー 株価チャート（日足）

